

2017 年度 [第 7 回] 学生観光論文コンテスト

テーマ C : 我が国の MICE(マイス)競争力強化に向けて、私の提案

複数都市協力型 MICE 開催による日本の MICE 競争力の向上

～主要都市 MICE に対抗するための地方都市 MICE の在り方～

駒澤大学 経済学部
番場ゼミナール 3 年

及川 侑香
倉品 果歩
田中 由香

目次

はじめに	2
第1章 日本のMICEの現状と課題	
第1節 日本における開催状況	2
第2節 地方都市が抱える課題	3
(1) 資金問題	3
(2) 観光問題	3
第2章 地方都市MICE開催の可能性	
第1節 大分県別府市の事例による地方都市MICEの可能性	4
第2節 地方都市で行うための改善策	5
(1) 地方都市の潜在的資源の活用	5
(2) 複数都市協力型MICE	6
第3章 地方都市MICE開催に向けて	
第1節 長野県の可能性	7
(1) 長野市と上田市の魅力	7
(2) 長野上田連携モデル	9
第2節 MICE競争力強化に向けた私たちの提案	11
おわりに	11
参考文献	12

はじめに

MICE とは企業間の会議・研修旅行・国際会議だけでなく、展示会やイベントも行う多くの集客効果が見込まれるビジネスイベントである。開催条件として主催者が「国際機関・国際団体（各国支部を含む）」または「国家機関・国内団体」で、参加者総数が 50 名以上、日本を含む 3 カ国以上の参加、開催期間が 1 日以上であることが基準とされている。MICE は一般の旅行者に比べ滞在期間が長く、会議開催に伴う宿泊・観光・飲食などの消費が多く行われるため、その地域における経済効果が上がるといわれている。このことから日本各地で開催することが日本活性化、そしてさらなる MICE 開催の競争力強化に繋がるのではないだろうか。（MICE 選考基準、観光庁 HP）

また日本は現在、観光立国の実現に向けて様々な取り組みを行っており、その政策として観光旅行に限らず、アジアで NO.1 の国際会議開催国として不動の地位を築くことが目標の 1 つとして掲げられている。この地位を築くためには MICE が必要不可欠であるが、日本では現在、東京・大阪・福岡などの都市で数多くの MICE が開催されている一方で、地方都市での開催数は極めて少ないのが現状である。（観光立国促進閣僚会議資料、観光庁 HP）

以上のことを踏まえ私たちは、日本の MICE 競争力強化に向け開催数の少ない地方都市での開催に注目するべきであると考え、今回は長野県を例に今後の日本における地方都市での MICE 誘致について論じていく。

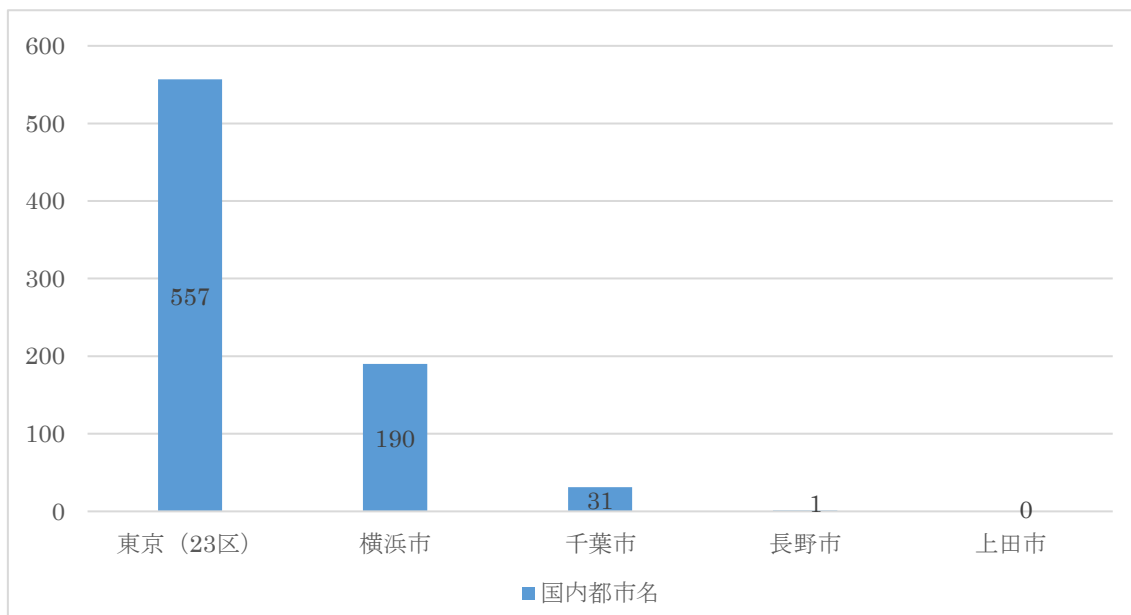
第 1 章 日本の MICE の現状と課題

第 1 節 日本における開催状況

世界全体の国際会議の開催件数は年々増加傾向にあり、その割合として国際機関・学会の本部の多くが設置されている欧州が世界全体の約半数を占めているものの、急速な経済成長を遂げているアジアや南米地域は特に、開催件数の伸びが高くなっている。それは日本も例外ではなく、アジア・大洋州地域の都市別の国際会議開催件数ランキング(2015 年)を見ると、2 位の中国に 20 件差をつけて日本が 1 位である。また、世界の都市順位で見ても東京は 28 位で、日本で見ると 7 位と高水準になっている。（国際会議統計情報、日本政府観光局 HP）これは、2013 年に東京をはじめとする 7 都市をグローバル MICE 戦略・強化都市と選定し、2015 年には札幌市を含む 5 都市を新たにグローバル MICE 強化都市に選定したことで、これらの都市は国からの支援を受け、開催件数増加を促進しているからである。（全 12 都市を以下、主要都市とする）そして、この主要都市での開催件数はこれからも増加することが見込まれる。（観光立国促進閣僚会議資料、観光庁 HP）

しかし、開催件数が 500 件を超えている主要都市があるのに対し、地方都市での開催件数は 0～1 回であることから、国からの支援を受けている主要都市と地方都市間での資金格差が開催件数に大きな問題を与えていると考えられるため、MICE の競争力強化には地方都市での開催件数の極端な少なさを改善する必要があると考える。（図表 1）

図表 1 国内都市別国際会議開催件数の比較(2015年)



(参照：日本政府観光局 HP)

第2節 地方都市が抱える課題

(1) 資金問題

MICE を開催すると、その地域にプラスの経済効果があるにも関わらず、地方都市で開催されることが少ないのが現状である。

上記でも述べたように、地方都市で MICE を開催する上での課題は、政府からの支援がないために設備投資の財源を確保できず、自分たちで財源を確保しなくてはならないということである。また、仮に MICE のために新たな施設を建築すると、初期費用だけでなく継続的な財源確保・利用が必要となるため、資金が少ない地方都市は MICE 開催後もその施設を有効利用しつつ運営・管理していくことが懸念される。そのため、新たな施設の建築は適切ではなく、その地域にあるホテルの会議室や大学の教室などの小規模な施設の方が、東京ビックサイトのような大規模な施設に比べ利用するのに適しているだろう。また、MICE で利用可能な客室数を備えている宿泊施設があるか、ということも問題視されている。

(2) 観光問題

次に MICE を開催する上で必要不可欠な観光面において、主要都市のように多くの駅やバスの案内に英語の表記がされていないということが地方都市の問題として挙げられる。日本語が分からない訪日外国人にとって、移動に時間がかかると共に行きたい方面への乗り物に乗ることができないといった問題がでてくるだろう。これは主要都市の英語の表記やアナウンスのある駅でも例外ではなく、駅構内で困っている訪日外国人を見ることも多い。このことを考慮すると、訪日外国人対応不足が問題視されている地方都市での訪日外国人だけの乗り換えはとても困難であり、この問題を解決する策があれば、観光地間の移動が

容易になり MICE に適した観光ができるようになるのではないだろうか。

第 2 章 地方都市 MICE 開催の可能性

地方都市 MICE を開催する上での資金・会議施設・宿泊施設・観光資源・人材不足の問題を踏まえ、地方都市での MICE 開催において重要なことは、

- ①小規模 MICE を誘致・開催
- ②誘致するテーマ(学会)を地域の特徴を反映したものにしぼること
- ③既存の施設を有効活用
- ④複数の地方都市が共同開催
- ⑤大学と開催都市との連携

以上の 5 つであり、これらを満たすことができれば、地方都市での MICE 開催の可能性が高くなると考えられる。

第 1 節 大分県別府市の例による地方都市 MICE の可能性

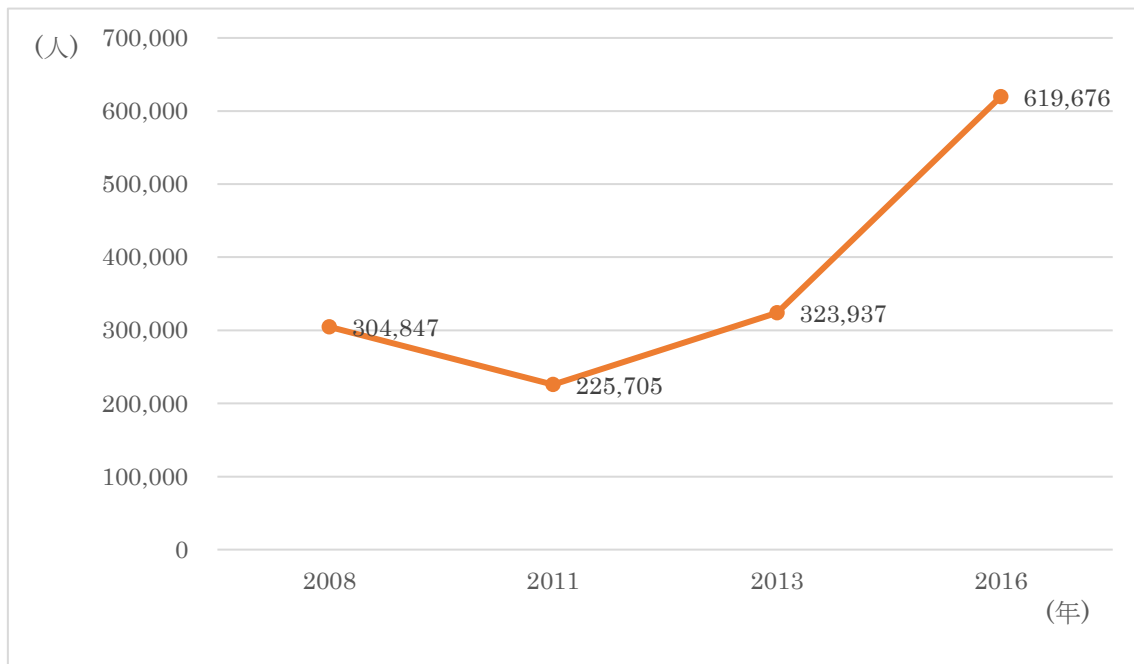
別府や湯布院など温泉地として全国的に有名な大分県は、国際観光温泉文化都市として知られており、国内外問わず様々な会議が開催され高い評価を得ている。MICE を開催するための人材不足や、地域の研究機関や経済団体との連携不足、観光資源などの資源活用を課題として抱えていた別府市がなぜ MICE の誘致・開催を成功させることができたのかを論じていく。

まず、人材・連携不足の解決策として、コンベンション・ビューローの存在しない別府市は自らが主体となって国際会議の誘致に取り組んでおり、会議の誘致・開催に必要な人材・資金不足を解消するために、地域の事業者や各種団体と積極的に連携を行い活動している。例えば、市役所の近くにある MICE 施設との高頻度な連携を取ることで密な情報交換と連携が可能になった。

次に資源活用の課題を解決するために、別府市に学術機関や産業集積に特出する強みがないことから、温泉を地域最大の資源として宣伝しており、大分県と協力し「温泉県 MICE 開催ガイド」の作成や温泉の立地を記した市街地マップの作成といった数多くの温泉を取り入れたコンテンツを作成している。(国内モデル都市事例紹介集、観光庁 HP)

以上のことを行ったことで大分県では、2011 年度の東日本大震災により一時、訪日外国人の数は減少したが、その後回復し 2016 年度には前年比 111.6%とアジアをはじめとする訪日外国人の宿泊客が急激に増加した。(図表 2)

図表 2 大分県観光統計調査



(参照：大分県公式 HP)

長野県は大分県と同様、県内の産業のうち宿泊業や飲食サービス業が盛んであることから、長野県でも MICE を開催すれば大分県のように成功させることができるのではないかと考える。(産業構造マップ 2014 年、RESAS HP) しかし、別府市は日本でも認知度の高い別府温泉があるため、地域との連携と上記に提示した③既存の施設を有効に活用することに重点を置き MICE 開催に成功したが、今回取り挙げる長野市と上田市のように 1 つの地方都市に特化した観光資源がない地方都市が MICE を成功させるためには、④複数の地方都市が共同で開催することが最も重要である。

また、新しく会議・宿泊施設を作っても常に稼働するわけではなく、負債となる可能性が高く持続的な取り組みとはならない。今ある物を有効に活用することで持続可能な仕組みを作ることこそ地方都市における MICE の方向性であろう。

そのうえで、私たちが今回の事例で着目した点は 2 つあり、1 つ目は地域資源を最大限に活用したことで新たな設備投資をせずに資金不足の問題を解決した点、2 つ目は地域の事業者や団体などと連携したことで人材不足を補った点である。これらの点を活かすことができれば、主要都市に埋もれてしまっている地方都市でも国際会議を開催することが可能になると考える。

第 2 節 地方都市で行うための改善策

(1) 地方都市の潜在的財源の活用

上記で述べた地方都市 MICE 開催の課題と大分県の事例を踏まえ改善策として挙げられることは、①小規模 MICE を誘致・開催、②誘致するテーマ(学会)を地域の特徴を反映したものにしぼること、③既存の施設を有効活用、④複数の地方都市が共同開催、⑤大学と開催都

市との連携の5つである。

小規模 MICE であれば会議施設としてホテルや大学を活用し、宿泊施設として客室の少ない旅館に宿泊してもらうことができるため、地方都市でも今ある財源を最大限に利用し誘致することが可能になる。私たちが旅館を提案する理由は、訪日外国人が日本で体験したいことの上に位置する温泉が備わった施設で宿泊してもらうことで、世界で有名な日本の温泉を楽しんでもらうことができるからである。これは、温泉地の多い地方都市ならではの宿泊施設であり、都市では体験することができない文化に触れてもらう機会に繋がる。また、新たな宿泊形態として2~4人の少人数で利用する相部屋を用意することで宿泊料金を安く抑えることができると同時に、客室の利用数を抑えられるため、客室の少ない旅館でも MICE 参加者だけでなく、一般客も同時に利用することが可能になる。

観光面に関しては、別府市の事例から開催都市と事業者や各種団体との連携が重要であることが分かり、様々な団体があるなかで今回は大学との連携に着目した。そして、開催都市の大学に通う日常会話レベル以上の語学力を持った学生との交流をプログラムに組む方法を提案する。学生に協力してもらうことで、観光地の案内や電車やバスの乗り降り、店員とのコミュニケーションを担うことができる。また、スタッフとして学生に協力してもらうことで人材不足を補うことができ、地域貢献にも繋がるため、大学と開催都市との連携が大切だと考えた。

学生を選ぶメリットとして、流行に敏感である若者であれば、情報量の多さや SNS の利用を活かし、日本の文化や伝統に流行を組み合わせたユニークなプランを提供できるだけでなく、学生側も訪日外国人と関わることで、語学力やコミュニケーション能力を向上させる機会であるということ、学生同士でプランを考えることで企画力や協調性がつくというメリットがある。それに加え、学生は社会人に比べ時間に余裕があるため案内人として起用しやすいと考えられる。

(2) 複数都市協力型 MICE

その他に、アクセスの良さが重要視される MICE において地方都市での開催の場合、主要都市に比べアクセスが悪いことが挙げられていたが、最近では新幹線の開通、空港の国際化などにより以前に比べアクセスが容易になったため地方都市での開催も可能になっただろう。しかし、地方都市は主要都市に比べ、同じ地域に施設や観光資源が集中していないことが多く1つの地方都市で開催し、観光や宿泊してもらうことは可能ではあるが満足した MICE が開催できない。そのため、複数の地方都市がそれぞれの魅力を提供し合い、1つの MICE を開催することができれば、地方都市でも主要都市に対抗できる MICE の誘致が可能になるのではないかと考えた。そこで、地方都市ならではの小規模 MICE 開催成功に向け私たちは、MICE を開催する上での必要条件に加え、以下の条件を考えた。

- 1、空港や新幹線の駅からのアクセスがよいこと
- 2、文化財や食文化、おもてなしといった日本ならではの体験ができること
- 3、同じ県内の都市間でそれぞれが財源を補い合い MICE ができること
- 4、開催都市に大学の参加してくれる学生がいること

ここで挙げた条件を満たしている地方都市は全国各地にあり、地方都市の特徴に反映した

テーマ(学会)を選び MICE を開催することで、より満足度の高い MICE が開催できるようになるのではないだろうか。そこで私たちは今回、主要都市を經由しアクセスしやすく、複数の都市がそれぞれ今ある財源を最大限に活用し、提供することで地方都市に小規模 MICE を誘致する複数都市協力型 MICE を提案する。

第 3 章 地方都市 MICE 開催に向けて

この章では長野県を例に挙げ、地方都市での MICE 開催の可能性を論じていく。長野県の MICE 開催件数は毎年 0~2 件程度に留まっているのが現状である。長野県を含め、地方都市で MICE が開催されていない問題として挙げられるのは上記で述べている通り、資金・会議施設・宿泊施設・観光資源・人材不足である。

MICE を開催する上で足りない地域資源を複数の地方都市で補い合い、魅力的な地域資源を提供し合うことで、地方都市での MICE の誘致を可能にし、より満足度の高い MICE を開催することができる考えた。

そこで私たちは、実際に長野県の長野市と上田市に足を運び調査した。調査を元に長野上田連携モデル提案し、このモデルを例に地方都市での MICE 開催の可能性を論じていく。

第 1 節 長野県の可能性

(1)長野市と上田市の魅力

まずアクセスの面では、長野県は本州の中心に位置し、日本で最も多い 8 つの県と面している。東京都や名古屋市から 200 キロメートル圏内であり各主要都市の中間地点であるため、どの都市からも自動車や新幹線などを通じてアクセスが良く、北陸新幹線では東京駅から長野駅まで 1 時間半、上田駅までだと 1 時間 15 分で行くことが可能である。

長野市には、国宝として有名な善光寺や戸隠があり、蕎麦打ちや忍者体験ができる。実際に訪れたところ、善光寺仲見世通りにある飲食店、近代的な景観から歴史的な景観へと移り変わる様子が楽しめる善光寺表参道の街並み、戸隠での忍者・蕎麦打ち体験など訪日外国人が興味を持ちそうな観光資源が十分存在していた。また、会議室として利用可能な施設が充実しており、特に信州大学のキャンパスは善光寺から歩いていける距離にあるため、会議室として利用するのに適している。ただ、ホテルは数多く存在しているが、旅館の数は少なく温泉地は存在しないため、今回私たちが提案する MICE では宿泊に向いていない。

一方、上田市には、NHK 大河ドラマ「真田丸」で有名になった上田城や信州上田北国街道柳町、上田市立丸子郷土博物館、別所温泉などがある。上田城は、武将の格好を身にまとった案内人が無料で城内案内や、真田氏と上田市の歴史について紹介するおもてなし、英語の表記の地図・説明・標識を設置するなど、訪日外国人への配慮がなされていた。信州上田北国街道柳町は、上田城下の歴史ある街道で上田市の名物・銘品を楽しむことができる店舗が

立ち並んでいる。上田市立丸子郷土博物館では、かつて長野県の主要産業であった養蚕業について学ぶことができる。別所温泉には複数の温泉・旅館があるだけでなく、周辺に国宝や重要文化財をはじめ数多くの神社仏閣が存在しているため、宿泊・観光に向いている。(信州上田観光情報、上田市 HP) また、上田市には長野大学・信州大学・長野県工科短期大学校・上田女子短期大学といった計4つの会議が開催可能な大学・短期大学などが充実しており、MICE 開催の強力なスタッフとなりうる学生が多数いる。特に信州大学の上田キャンパスには日本で1つしかない繊維学部があることから、繊維・アパレル系の学会の誘致に適している。また、教育・文化の街として有名であるため、教育・文化系の学会の誘致にも適している。

長野県の食文化は蕎麦やジビエ、美味だれ焼き鳥、おやきが有名であり、宗教上の理由による食文化の異なった国の人であっても食事を楽しんでもらうことが可能である。また、長野県では味噌や漬物などの塩分の高い食事をとる傾向があったが、その様な食生活の見直しや健康・長寿に向けた取り組みに積極的に取り組んだことで日本1の長寿の県として有名になったため、医療・健康系の学会を誘致することに適しているだろう。また、自然が豊かであり日本のアルプスが集まっていることから、山岳系の学会の誘致にも適している。このように、開催都市に合ったテーマを絞り学会を誘致するべきだと考える。

上田市と長野市には魅力的な観光資源がたくさんあるが、観光地によって観光客の人数に偏りがある。例えば上田市は上田城や別所温泉を積極的に宣伝しているが、信州北国街道柳町はパンフレットに掲載されていないことが多いため、観光資源が揃っているにも関わらず知名度が低く、観光客が少ない。しかし、先ほど提案したように、その土地に詳しい学生を案内人として起用することで、このような事態を免れることが可能になり、より満足度の高い観光ができるのではないだろうか。

今回私たちが紹介する MICE では、宿泊施設は訪日外国人のニーズに合わせ、日本の文化を堪能してもらうために温泉地や旅館が良いと考えたが、長野市に温泉地は存在しないため、別所温泉のある上田市を宿泊地として利用する。観光資源や会議施設は上田市と長野市両方に揃っているため、それぞれ魅力的な地域資源を提供し合い、いくつかのパターンを組み合わせることで、より満足度の高い MICE を行うことができる。また、このように宿泊地や観光地、会議を行う場所を分散させることにより、それぞれの地方都市に経済効果が見込まれる。

長野市と上田市は地方都市 MICE 開催のための5つの点(①小規模 MICE を誘致・開催、②誘致するテーマ(学会)を地域の特徴を反映したものにしぼること、③既存の施設を有効活用、④複数の地方都市が共同開催、⑤大学と開催都市との連携)に対応しているため、今回私たちの提案する複数協力型 MICE の開催地として適しているといえる。



(善光寺・善光寺表参道、7月18日、筆者撮影)



(別所温泉・柳町、7月18日、筆者撮影)

(2)長野上田連携モデル

この章では、長野市と上田市ならではの特徴を活かし、どのような MICE を開催することができるか、実際に開催モデルを作成し論じていく。誘致する団体についてはアパレルや繊維学、医療系の学会などといった様々なものがあるなかで、今回は医療系の学会を誘致すると仮定する。また、会議や宿泊、観光地について様々な組み合わせ方があるなかで今回は会議を長野市、宿泊を上田市、観光は両都市で行うと仮定し、具体的に流れを説明していく。1日目は新幹線で長野駅に向かい、信州大学の教育学部で会議を行い、その後開催都市の学生と共に歩いて善光寺に向かい観光をする。観光終了後は学生と共にしなの鉄道別所線に乗車し別所温泉まで案内してもらう。別所温泉に到着後、旅館に向かい、宿泊形態で相部屋を選択した人は各部屋に移動し、様々な国籍の人々との交流を楽しんでもらう。

翌日 2日目の観光は今回の体験型コースや歴史型コース、地域密着型コースのように複数のプランを学生が提案し、訪日外国人に実際に行きたいコースを選択してもらい、学生に案内人として同行してもらう。(図表 3)

図表3 具体的なプラン

プラン名	主な流れ
体験型コース (長野市)	蕎麦打ち→食事（蕎麦）→忍者体験
歴史型コース (上田市)	別府温泉外湯→北向観音・安楽寺→食事（馬刺し・おやき） →柳町(酒蔵・味噌蔵見学)→上田城
地域密着型コース (上田市)	北向観音・安楽寺→食事（蕎麦）→丸子郷土博物館 →食事（美味だれ焼き鳥）

(出典：筆者作成)

例えば1つ目の体験型コースでは、長野県の代表食の1つである蕎麦の蕎麦打ち体験や、日本のサブカルチャーとして海外からも人気のある忍者体験をメインに観光案内することで日本の様々な文化に触れてもらうことができる。2つ目の歴史型コースでは、日本ならではの城下町らしい風情を体感できる歴道探索や、蔵や城などといった歴史的建造物などを観てもらうことによって、日本の歴史についてより深く知ってもらうことができる。3つ目の地域密着型コースでは、開催都市ならではの名産品を食べてもらうだけでなく、伝統を学んでもらうことで、地方都市への関心がより高まり、MICE 開催後も再び足を運んでもらえるのではないかと考える。

学生の役割は、スタッフとして事前にいくつかプランを企画してもらい、当日案内人として協力してもらうことである。英語を話すことができる学生が観光を共にするだけでなく、移動も共にすることで、日本語が分からない訪日外国人でも安心かつ楽しんでもらうことができる。

またそれぞれの移動時間は、例えば、長野駅から上田駅はしなの鉄道の快速で約30分、新幹線で約15分、長野駅から信州大学教育学部キャンパスは自動車ですら約10分、上田駅から別所温泉は車で約30分などと複数の都市で開催しているが、どの区間も1時間以内で短いといえるだろう。新幹線では時間を短縮して移動をすることが可能だが、地方都市で開催する上では資金を抑えることが重要視されるため、県外からのアクセスは新幹線を用いしてもらい、県内の移動はしなの鉄道を用いる方が良いと考えた。(しなの鉄道HP, JR 東日本HP)

長野県ならではの歴史的建造物などの観光や、日本食を食べて日本を堪能してもらうのではなく、長野駅から続く善光寺参道を体感し、例えば体験型コースでは蕎麦打ちを実際に体験してもらうことで、訪日外国人により満足してもらえるのではないかと考える。豊富な観光資源やアクセスの利便性から長野市と上田市はMICEを開催するのに向いているといえるだろう。

第2節 MICE 競争力強化に向けた私たちの提案

地方都市 MICE 開催に向けて私たちは、①小規模 MICE を誘致・開催、②誘致するテーマ(学会)を地域の特徴を反映したものにしぼること、③既存の施設を有効活用、④複数の地方都市が共同開催、⑤大学と開催都市との連携の5つの点を重要視してきた。

それを踏まえ、私たちの提案は3つあり1つ目は、複数の地方都市(今回は長野市と上田市)を組み合わせることで主要都市と対抗できるような MICE を開催することである。観光や会議、宿泊を1つの都市で行うのではなく、複数の都市が協力して1つの MICE を作り上げることで、単独で開催するよりも、資金面や観光面といった様々な負担を軽減し補い合うことができるため、地方都市による MICE の誘致・開催がより身近なものになるだろう。

2つ目は、学生がスタッフとして2日目の観光プランを複数設定し、案内人になり同行することである。観光プランを複数提案し、その土地に詳しい学生が同行・案内することで訪日外国人が日本に来て不便に感じることを解消することができる。また、学生が案内人になり開催都市と連携することで、大学と開催都市との関係がより密なものになるだろう。

3つ目は、宿泊プランとして相部屋と1人部屋を選択できるようにすることである。通常の MICE にはない、自国のみならず様々な国籍の人々と宿泊し、交流を図ることができるという珍しさから参加者により満足してもらえるのではないかと考える。また少人数で1部屋に宿泊してもらうことで、宿泊施設の少ない地方都市でも MICE を誘致しやすくなるだけでなく、参加者は費用を抑えることができる。

以上の3つの提案を組み合わせることで、主要都市に対抗できる MICE を地方都市でも開催できるのではないかと考える。

おわりに

アジアの国々が国際会議誘致に向けた取り組みを行うなかで、日本も遅れをとらないような政策を行わなければならない。また、観光立国の実現に向けての取り組みのなかでも国際会議が重要視されており、これからの日本は MICE 誘致に力を注いでいくと推測される。そこで、日本の MICE 競争力向上を図るには、都市だけでなく、地方都市での MICE 開催数の増加が必要不可欠である。

今回長野県で現地調査を行い、地域資源は整っているが、MICE を開催する上での資源が1つの都市に揃っていないことから地方都市では複数の都市で協力して MICE を開催することが必要だと考えた。そこで今回長野県を例にし、提案した複数都市協力型 MICE 開催を実現していくことができれば、地方都市での MICE 開催が可能になり、主要都市と地方都市での MICE 開催格差の拡大を防ぐことができるだろう。

今回取り上げた長野上田連携モデルを参考に地方都市が MICE を開催することで、日本各地で MICE が開催されることが見込まれる。それだけでなく、地方都市 MICE 開催に伴い経済効果も見込まれ、日本全体で観光立国としての成長が期待でき、これが日本のさらなる MICE 開催の原動力となるだろう。

<参考文献一覧>

- ・ 国際会議統計情報、日本政府観光局 HP (2017年6月29日アクセス)
https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/20150520_2.pdf
- ・ 国内都市別国際会議開催件数、日本政府観光局 HP (2017年6月29日)
http://mice.jnto.go.jp/doc/data/cv_tokei_2015_shiryohen1.pdf
- ・ MICE 選考基準、観光庁 HP (2017年6月29日アクセス)
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/>
- ・ 国内モデル都市事例紹介集(MICE)、観光庁 HP (2017年6月29日アクセス)
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/index.html>
- ・ 観光立国促進閣僚会議資料、観光庁 HP (2017年7月1日アクセス)
http://www.mlit.go.jp/kankocho/category01_000048.html
- ・ 信州上田観光情報、上田市 HP (2017年7月6日アクセス)
<https://www.city.ueda.nagano.jp/kankojoho/model/index.html>
- ・ 地域経済分析システムによる産業構造マップ、RESAS HP (2017年7月21日アクセス)
<http://resas.go.jp>
- ・ 大分県観光統計調査、大分県公式 HP (2017年7月21日アクセス)
<http://www.pref.oita.jp/soshiki/10820/kankoutoukei.html>
- ・ 時刻表、しなの鉄道株式会社公式 HP (2017年8月20日アクセス)
<http://www.shinanorailway.co.jp/rail-info/>
- ・ 時刻表、JR 東日本公式 HP (2017年8月20日アクセス)
<http://www.jreast.co.jp/>
- ・ 上田市立丸子郷土博物館 (2017年10月2日アクセス)
<http://museum.umic.jp/maruko/kindai-seishi/index.html>